沖縄県立那覇国際高等学校

飛　躍

学校だより 第３号
2026 年（令和８年）６月 22 日
校是：右文尚武
（学業を尊び、部活動にも励む）
発行者　校長　伊志嶺嘉典

～慰霊の日～

明日は「慰霊の日」です。太平洋戦争において、日米最大の地上戦の舞台となり、大きな被害を受けた沖縄では、「慰霊の日」に各地で追悼行事が行われ、改めて不戦の誓いが立てられています。しかし、現在、私たちは大きな課題に直面しています。戦後 80 年以上が経過し、沖縄戦の体験者がご高齢となり、悲惨な地上戦を直接語ってくれる方々が年々減少していることです。

世界に目を向けると、現在もあちらこちらで戦争、紛争、テロなどで毎日のようにかけがえのない命が失われています。沖縄戦の実相を知り、戦争の悲惨さを後世に語り継いでいくことはとても大切なことです。しかし、より大切なことは「戦争」を過去の出来事として捉えるのではなく、なぜ、戦争がおこってしまったのか、それを避けることはできなかったのかなど、一人ひとりが愚かな戦争の過ちから学び、平和な世の中を継承していくために必要なことを深く考え、勉強していくことです。県内の学校では毎年、戦争を忌み嫌い平和の尊さについて学ぶ月間として特設授業が行われています。本校でも６月 18 日に、**琉球歴史文化研究所 所長「賀数　仁然」氏**を講師にお招きし、平和学習会を実施しました。

学習会の中で、賀数氏は、沖縄はかつて琉球王国として、軍事力ではなく外交、芸能、料理を駆使してアジア諸国と友好を築き、繁栄を遂げた独自の文化を持っていたとお話されました。しかし、近代化の波と共に日本に組み込まれ、その後、沖縄戦という凄惨な悲劇を経験することになります。鉄血勤皇隊やひめゆり学徒隊など、多くの若者や学生も戦場に駆り出され、尊い命と文化遺産が失われました。賀数氏は、過酷な収容所生活でも伝統芸能で心を奮い立たせた先人の姿を通して、共生の精神を次世代へ語り継ぐ重要性を強調し、平和の尊さについて、分かりやすく語りかけて下さいました。

また、図書室前のピロティーでは、図書委員を中心に「平和資料展」の展示を行っています。この機会に、ご家庭でも沖縄戦や平和について深く考える時間を持っていただけたらと思います。

オーストラリア高校生徒との国際交流

６月 22 日、オーストラリアの高校生代表と本校１年生の交流会が行われました。まず、１年３組で歓迎のセレモニーや各自の文化紹介、ランチミーティング。１年９組では、「平和のために私たちができる事」をテーマにディスカッションを行いました。わずか３時間ほどの短い時間でしたが、生徒たちがあっという間に打ち解け、活発に交流する姿に驚かされました。相手を知り、違いを尊重し、友情を育む。このような対面での「異文化交流」などの小さな積み重ねこそが、平和への最も確実な一歩なのだと改めて実感させられました。１年３組、９組の皆さん、そして担当してくださった、仲吉先生、本当にお疲れ様でした。

【祝】最優秀賞受賞！

第 36 回児童・生徒平和メッセージにおいて、本校３年生の東恩納沙奈さんの作文「声なき声」が見事、最優秀賞に輝きました（6/22 琉球新報に記事掲載）。過去の犠牲者の声を継承し、平和な未来を築くために行動する決意が綴られた素晴らしい作品です。

ラジオ放送：6/23（生放送）、6/27（特番）RBCi ラジオ放送。
作品展示：6/23～平和祈念資料館「児童・生徒平和メッセージ展」

生徒の皆さんも、ぜひこの素晴らしい作品に触れてみてください。